

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700113		
法人名	社会福祉法人幸清会		
事業所名	グループホーム幸豊ハイツ・ほのぼの		
所在地	虻田郡豊浦町字大岸151番地18 (電話) 0142-84-1611		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	平成20年5月7日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成9年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	8.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

(4) 利用者の概要(3月4日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	0	要介護2	1			
要介護3	3	要介護4	4			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	82.2歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘サテライトクリニック・友愛会歯科医院・豊浦町国保病院 他
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は開設してから10年が経過し、地域や行政と連携を取りながら、充実したサービスを提供し続けている。木材をふんだんに使用した造りで、事業所内全体が明るく柔らかい雰囲気を有している。同一法人の事業所が隣接しており、協働し地域に根ざした運営を実践している。また、職員は常に技術向上を図りながら日々のケアサービスを実践し、利用者はゆったりと落ち着いて生活している。今後も更なるケアサービスの質の向上が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価実施後に、全項目を再度点検し、課題について改善に取り組むとともに、更なる質の向上に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	家族の意見も参考にし、全職員で話し合い自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の更なる質の向上を目指して討議し、そこで出た意見等を事業所の運営に反映させている。また、会議には地域住民も積極的に参加するなど、地域に根ざした事業運営が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	事業所内に「ふれあいポスト」と名付けた意見箱を設置し、家族が意見・要望・苦情等を伝えやすい工夫をしている。また、職員は利用者家族とのコミュニケーションを大切にしており、日頃から連絡を取り合い、家族の意見や要望等を聞き事業所の運営に反映させるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭りや盆踊り等の自治会の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。また、地域と連携した取り組みも行っており、今後も地域から支援を受けながら更なる充実が期待できる事業所である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての明確な理念を掲げ、職員は常に意識しながらその達成に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念が記載したカードを携帯し、日々のケアサービスにおいて実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや盆踊りなどの自治会の行事に積極的に参加し、地域住民との交流を図っている。また、併設している事業所と協働し、より地域と連携を図れるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で項目ごとに話し合い、自己評価に取り組んでいる。また、共用空間には外部評価の結果等を自由に閲覧できるよう書類を整備しており、評価結果を活かし、ケアサービスの更なる質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、家族や地域住民も参加して話し合いを行っている。会議では事業所の運営状況等について意見交換を行い、そこで出た意見等を事業所の運営に反映させるとともに、更なる質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や広域連絡会議を通し、市町村担当者と連携を取り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、広報誌とともに担当職員による利用者の生活状況等についてのコメントを家族に送付している。また、金銭管理について台帳や領収書等を同封し、家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に「ふれあいポスト」と名付けた意見箱を設置し、家族が意見・要望・苦情等を伝えやすい工夫をしている。また、職員は日頃から家族とのコミュニケーションを大切にし、家族が意見等を気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職は最小限となるよう努めている。異動等があった場合は、引き続き利用者との関わり合いを保つなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年度研修計画を立て、定期的に内部研修を実施している。また、運営者は外部研修に積極的に参加するとともに、資格を取得する機会を設けるなど、職員の資質向上に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域ケア会議や広域連絡会主催の会議に出席した際に同業者と交流し、意見交換を行うとともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらうとともに、体験利用を行うなど、本人が事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>買い物・理美容院等への外出時に付き添うなど、柔軟な支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居申し込み時のアセスメント実施の際に利用者本人・家族から情報を収集するとともに、日々の表情・様子等から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族の意見や希望を採り入れ、カンファレンス時に職員間で話し合い、一人ひとりの状態に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の定期的な見直しを行うとともに、利用者の状態変化や、家族の希望に応じてそのつど話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している事業所と連携を取りながら、利用者・家族の希望や意向を重視した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。また、事業所に看護職員を配置し、日常的に利用者の健康管理を行い、かかりつけ医と情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の方針について、入居時や利用者の状態変化に応じて家族を交えて話し合い、情報を共有しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者への尊厳を持ち、誇りを損ねることのないよう接している。また、個人情報保護の取り扱いを定めており、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの力や希望に沿った支援を行い、その人らしい暮らしとなるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を採り入れ、季節に応じた食材を使用した献立を作成している。また、利用者の力に応じて、食事の準備や後片付け等を職員と一緒に行うとともに、刻み・ミキサー食など、一人ひとりの状態に応じて調理方法を工夫し支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴支援を行っている。また、夜間帯等の時間帯や回数など利用者の希望に応じた対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を踏まえ、散歩・畑作業・趣味活動など、一人ひとりの力や趣味に応じた支援を行っている。また、利用者・職員全員が出席しての誕生日会など、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、地域への外出支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は施錠しているが、日中は鍵をかけておらず、利用者が自由に外出し開放的な生活ができるよう支援している。また、夜間来訪者には、インターホンで対応するなど工夫し、利用者の安全面に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署協力による避難訓練や、事業所独自の防災訓練などを年に4回実施している。全職員が救急救命講習を受講しており、災害時に対応できるよう備えている。また、併設している事業所と密に連携を取っているとともに、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量をチェック表に記録し、職員間で情報を共有している。また、栄養士の資格を持つ職員が献立を確認し、栄養バランスの取れた食事内容となるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には昔懐かしい箆笥等が設置され、和やかな雰囲気をもっているとともに、利用者が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの物が、持ち込まれており、本人が安心して過ごせるよう支援している。また、家族が宿泊することも可能である。		

※  は、重点項目。